

15 文献総合目録

(1) 令和5年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
22	102	0	52	176

(2) 令和5年度に発表等を行った文献の目録

01 育種一般及び育種計画

011 総説

1. 高橋誠、日本における林木育種の現況と今後の方向性、森林遺伝育種、12(2):59-62、2023. 04.
2. 加藤一隆、最近の研究成果のご紹介、野幌の丘から、196:7-8、2023. 09.
3. 三嶋賢太郎、令和4年度東北育種基本区における新品種の開発、東北の林木育種、233:2、2023. 07.
4. 井城泰一、東北育種場における林木の品種開発と育種技術の開発について、秋田の森林づくり、795:6-7、2023. 11.
5. 平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、栗田学、日本の林木育種の過去・現在・未来:(2)スギー1 シリーズ開始に寄せて、森林遺伝育種、12(4):150-151、2023. 10.
6. 井城泰一、日本の林木育種の過去・現在・未来:(2)スギー6 スギにおける木材性質の遺伝性、森林遺伝育種、13(1):6-10、2024. 01.

012 育種計画

1. 岩泉正和、久保田正裕、福田有樹、倉原雄二、松永孝治、武津英太郎、九州育種基本区におけるヒノキ次世代育種の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:30、2023. 11.
2. 松下通也、日本の林木育種の過去・現在・未来:(2)スギー3 スギにおける林木育種戦略: 精英樹選抜と次世代化、森林遺伝育種、12(4):157-162、2023. 10.

02 遺伝、育種及び変異

021 選抜

1. 加藤一隆、北海道における特定母樹の指定状況ーカラマツについてー、北海道の林木育種、66(1):6-7、2023. 11.
2. 井城泰一、三嶋賢太郎、那須仁弥、スギ雪圧害抵抗性検定林の10年次データを用いた解析、日本森林学会大会学術講演集、135:225(PF-31)、2024. 03.
3. 久保田正裕、新たにヒノキエリートツリーから特定母樹に指定されました、九州育種場だより、48:3、2024. 01.
4. 那須仁弥、村川直美子(山形県森林研究研修センター)、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、渡部公一(山形県森林研究研修センター)、矢野慶介、三嶋賢太郎、井城泰一、東北育種基本区におけるスギおよびカラマツの特定母樹への申請の取組と指定された系統の特性ー令和4年度の取組ー、林木育種センター年報(令和5年版)、111-112、2023. 10.
5. 矢野慶介、井城泰一、三嶋賢太郎、那須仁弥、宮本尚子、笹島芳信、黒沼幸樹、東北育種基本区内におけるスギ第2世代精英樹の選抜及び次世代化への取組、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:29、2023. 11.
6. 武津英太郎、倉原雄二、岩泉正和、松永孝治、雉子谷佳男(宮崎大学)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、九州のスギ精英樹における成長形質の影響を考慮に入れた応力波伝播速度のゲノミック選抜の試み、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B13-01-1445、2024. 03.
7. 武津英太郎、日本の林木育種の過去・現在・未来:(2)スギー2 成長関連形質の遺伝および獲得量について、森林遺伝育種、12(4):152-156、2023. 10.
8. 栗田学、エリートツリー、これまでの歩みと将来展望、森林遺伝育種、12(4):123-128、2023. 10.

9. 栗田学、花粉の少ないスギ品種の開発と普及について、グリーン・エージ、589:18-22、2023. 11.
10. 松下通也、小川広大、高橋優介、坪村美代子、大平峰子、田村明、関東育種基本区におけるスギ第三世代精英樹候補木の選抜－関東 77 号、関東 78 号、関東 79 号、関前 81 号、関育 261、関育 461 での実行結果－、林木育種センター年報(令和 5 年版)、115-117、2023. 10.
11. 松下通也、小川広大、高橋優介、坪村美代子、大平峰子、田村明、関東育種基本区におけるヒノキ第二世代精英樹候補木の選抜－関名 32 号、関名 27 号、関東 65 号、関育 643E における実行結果－、林木育種センター年報(令和 5 年版)、118-120、2023. 10.
12. 松下通也、小川広大、田村明、武津英太郎、遠藤圭太、関東育種基本区におけるカラマツ第二世代精英樹候補木の選抜－関名 7 号、関長 46 号、関前 69 号における実行結果－、林木育種センター年報(令和 5 年版)、121-123、2023. 10.
13. YASUDA Yuko(安田悠子・鹿児島大学)、IKI Taiichi(井城泰一)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)、Inheritance of growth ring components and possibility of early selection for higher wood density in Japanese cedar(*Cryptomeria japonica* D. Don)(スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)における年輪構造の遺伝性と木材密度を高めるための早期選抜の可能性)、Annals of Forest Science、81:5、2024. 01.

0 2 2 交雑(技術、交雑プロジェクト等を含む)

1. SHIRASAWA Kenta(白澤健太・かずさ DNA 研究所)、MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)(筆頭者同等)、HIRAKAWA Hideki(平川英樹・かずさ DNA 研究所)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、TSUBOMURA Miyoko(坪村美代子)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、IKI Taiichi(井城泰一)、ISOBE Sachiko(磯部祥子・かずさ DNA 研究所)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Haplotype-resolved de novo genome assemblies of four coniferous tree species(すべてのハプロタイプの連続性を維持した解析がもたらす 4 つの針葉樹種の de novo ゲノムアセンブリ)、Journal of Forest Research、巻号ページ未定 <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2267304>、2023. 10.
2. 三嶋賢太郎、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、井城泰一、福田陽子、平尾知士、永野聡一郎、福田有樹、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、田村明、高橋誠、カラマツ属育種のためのゲノムデータ基盤の整備、東北森林科学会大会講演要旨集、28:ポスター発表 34、2023. 10.
3. 福田陽子、カラマツ次代検定林の設定に向けた人工交配家系作出の取組、林木育種センター年報(令和 5 年版)、108-110、2023. 10.
4. 福田陽子、北海道育種場でのカラマツ育種の取組み－新規検定林設定に向けて－、野幌の丘から、196:6、2023. 09.
5. 福田陽子、カラマツ属の次世代育成と特定母樹の早期普及に向けた取り組み、北海道森林管理局技術開発成果発表会要旨(令和 5 年度)、発表番号 1、2023. 10.

0 2 3 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、SATO Ryosuke(佐藤良介)、UENO Saneyoshi(上野真義)、TANAKA Yoshino(田中淑乃・鳥取大学)、OMURA Kousei(大村昂誠・鳥取大学)、ENDO Keita(遠藤圭太)、ENDO Masaki(遠藤真咲・農研機構)、IWASAKI Takashi(岩崎崇・鳥取大学)、TAKATA Naoki(高田直樹)、KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、Development of a Genome Editing System in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don) using the CRISPR/Cas9 System(CRISPR/Cas9 を利用したスギのゲノム編集システムの構築)、国際植物バイオテクノロジー

一学会、15:393、2023.08.”

2. 七里吉彦、佐藤良介、高田直樹、上野真義、小長谷賢一、遠藤真咲(農研機構)、谷口亨、フラグメント解析とナノポアシーケンサーによるゲノム編集無花粉スギの遺伝子改変パターンの解析、日本植物バイオテクノロジー学会(千葉)大会、40:136、2023.09.
3. 佐藤良介、掌サイズのシーケンサーを用いたゲノム編集樹木の選抜、林木育種情報、43:7、2023.07.
4. OHBA Yusuke(大場裕介・筑波大学)、YOSHIHARA Sakura(吉原さくら・筑波大学)、SATO Ryosuke(佐藤良介)、MATSUOKA Keita(松岡啓太・帝京大学)、ASAHINA Masashi(朝比奈雅志・帝京大学)、SATO Shinobu(佐藤忍・筑波大学)、IWAI Hiroaki(岩井宏暁・筑波大学)、Plasmodesmata callose binding protein 2 contributes to the regulation of cambium/phloem formation and auxin response during the tissue reunion process in incised Arabidopsis stem(傷害を受けたシロイヌナズナの茎が再生する際に、Plasmodesmata callose binding protein 2(PDCB2)はオーキシン応答を介して形成層や師部の発達制御に寄与する)、Journal of Plant Research、DOI: 10.1007/s10265-023-01494-0、2023.09.
5. ASAHINA Masashi(朝比奈雅志・帝京大学)、SATO Ryosuke(佐藤良介、13人中3番目)、Analysis of Arabidopsis ANAC and DOF transcription factors involved in ectopic vascular differentiation. (ANAC 転写因子及び DOF 転写因子は異所的な維管束分化に関与する)、International Conference on Plant Growth Substances、24:66、2023.07.
6. TAKATA Naoki(高田直樹)、Generation of nst/snd double-, triple-, and quadruple-knockout hybrid aspens using CRISPR-Cas9 system. (木部繊維、木部放射柔細胞及び師部繊維の二次壁形成マスター転写群をノックアウトしたポプラ変異体シリーズの作製)、日本植物生理学会年会要旨集、65:ページ未定、2024.03.
7. 七里吉彦、高精度・制御可能な改良型ゲノム編集技術について、林木育種情報、44:6、2023.11.
8. 高田直樹、二次壁形成マスター転写因子を欠損した7種類のポプラ変異体の作製、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A13-10-1615、2024.03.
9. SATO Ryosuke(佐藤良介)、NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、TAKATA Naoki(高田直樹)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、FUKATSU Eitaro(武津英太郎)、FUJINO Takeshi(藤野健・東京大学)、YAMAGUCHI Katsushi(山口勝司・基礎生物学研究所)、MORIGUCHI Yoshinari(森口喜成・新潟大学)、SHIGENOBU Shuji(重信秀治・基礎生物学研究所)、SUZUKI Yutaka(鈴木穰・東京大学)、KASAHARA Masahiro(笠原雅弘・東京大学)、UENO Saneyoshi(上野真義)、Efficient selection of a biallelic and nonchimeric gene-edited tree using Oxford Nanopore Technologies sequencing(ナノポアシーケンサーを用いたゲノム編集樹木における遺伝子改変パターンの解析手法)、Tree Physiology、tpad158、<https://doi.org/10.1093/treephys/tpad158>、2023.12.
10. 佐藤良介、七里吉彦、永野聡一郎、小長谷賢一、谷口亨、高田直樹、スギ木部細胞の二次壁形成に関与する転写因子の探索とゲノム編集個体の作製、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A14-P-07、2024.03.
11. 佐藤良介、七里吉彦、永野聡一郎、小長谷賢一、谷口亨、高田直樹、スギ木部細胞の二次壁形成に関わる転写因子の探索、日本植物生理学会年会要旨集、65:3aC08、2024.03.
12. NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、NOSE Mine(能勢美峰)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、YASUDA Yuko(安田悠子・鹿児島大学)、OHIRA Mineko(大平峰子)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、YAMANOBÉ Taro(山野邊太郎)、KURITA Manabu(栗田学)、Expressed genes and genetic variations correlated

with tree growth based on a comparison of diverse *Cryptomeria japonica* clones(多様な遺伝的背景をもつスギクローンの比較による樹木成長と関連のある遺伝子と遺伝的変異)、Plant and Animal Genome 31(PAG31)、PE0078、2024. 01.

13. 永野聡一郎、能勢美峰、松下通也、平尾知士、高島有哉、安田悠子(鹿児島大学)、大平峰子、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、山野邊太郎、栗田学、多様なスギ系統の成長形質と関連のある発現遺伝子と遺伝的変異の検出、日本森林学会大会学術講演集、135:219(PF-3)、2024. 03.
14. 平尾知士、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、高島有哉、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、三嶋賢太郎、三浦真弘、磯田圭哉、山田浩雄、コウヨウザンにおける有用遺伝子の探索に向けた遺伝解析、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:25、2023. 11.
15. 平尾知士、マツ材線虫病抵抗性メカニズムの解明に向けた研究の紹介、林業いばらき、795:9、2023. 10.
16. HIRAO Tomonori(平尾知士)、INANAGA Michiko(稲永路子)、FUKATSU Eitaro(武津英太郎)、ORIBE Yuichiro(織部雄一朗)、ISODA Keiya(磯田圭哉)、MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、YAMADA Hiroo(山田浩雄)、Development of DNA markers associated with sensitivity to fenitrothion in *Chamaecyparis obtusa*(ヒノキにおけるフェニトロチオン感受性に関連する DNA マーカーの開発)、Plant and Animal Genome 31(PAG31)、P00071、2024. 01.
17. 平尾知士、小長谷賢一、楠本大(東京大学千葉演習林)、七里吉彦、ヒノキの薬剤感受性に関する遺伝学的研究、日本森林学会大会学術講演集、135:225(PF-28)、2024. 03.
18. 小長谷賢一、七里吉彦、平尾知士、楠本大(東京大学)、谷口亨、ヒノキのゲノム編集に向けた遺伝子組換え系の効率化、日本森林学会大会学術講演集、135:218(PF-1)、2024. 03.
19. 平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)、松下通也、永野聡一郎、平尾知士、スギにおける炭素貯留能力の改良に向けたゲノミック予測の試行、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-18、2024. 03.

0 3 樹種、品種の選択と植栽試験

0 3 1 次代検定(育種効果を含む)

1. 磯田圭哉、三浦真弘、関西育種基本区選抜ヒノキ精英樹のさし木植栽試験、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:30、2023. 11.
2. 山野邊太郎、造林地におけるスギの初期成長において育種の効果が表れる年次、関西育種場だより、102:2、2023. 11.
3. 山野邊太郎、篠崎夕子、岩泉正和、久保田正裕、山田浩雄、磯田圭哉、四国地区の 2 検定林におけるスギ第二世代精英樹候補木後代の 5 年次樹高、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:26、2023. 11.
4. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、TAMURA Akira(田村明)、OHIRA Mineko(大平峰子)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Age trends in genetic parameters and genetic gains of growth traits in multiple progeny test sites of hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa*)(ヒノキの複数検定林における成長形質の遺伝パラメーターと遺伝獲得量の年次変動)、Journal of Forest Research、巻号ページ未定 <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2265004>、2023. 10.
5. 高橋優介、松下通也、田村明、坪村美代子、高橋誠、石栗太(宇都宮大学)、関東育種基本区内におけるヒノキの局所適応およびそれに影響する気候因子、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:9、2023. 11.

6. 高橋優介、武津英太郎、井城泰一、高島有哉、福田有樹、松下通也、三浦真弘、栗田学、田村明、スギ広域産地試験から明らかにする遺伝と環境の交互作用が材質形質へ及ぼす影響、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-12、2024. 03.
7. 三浦真弘、千吉良治、松下通也、花岡創(静岡大学農学部付属地域フィールド科学教育研究センター)、テリハボク 10 年次までの系統別の成長状況について、亜熱帯森林・林業研究会発表要旨集(令和 5 年度)、:11、2023. 08.
8. 磯田圭哉、三浦真弘、高島有哉、関西育種基本区におけるヒノキさし木植栽試験、日本森林学会大会学術講演集、135:222(PF-18)、2024. 03.
9. 袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)、松下通也、田村明、エリートツリー選抜に向けたスギ交配系統の評価、関東・中部林業試験研究機関連絡協議会「第 4 回優良種苗の普及に向けた高品質化研究会」(令和 5 年度)、6、2023. 09.
10. 山野邊太郎、エリートツリーの育種と育苗、山林、1677:27-32、2024. 02.

0 3 3 産地試験

1. 三浦真弘、花岡創(静岡大学農学部付属地域フィールド科学教育研究センター)、井城泰一、松下通也、武津英太郎、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、高島有哉、福田有樹、高橋誠、スギ広域産地試験地における植栽 5 年次までの生存・成長、日本森林学会大会学術講演集、135:225(PF-29)、2024. 03.

0 4 採種園、結実促進、その他有性繁殖

0 4 1 採種園関係

1. 宮本尚子、小野賢二、竹田宣明、野口亨太郎、スギミニチュア採種園の植栽木の根系および窒素含有量、日本森林学会大会学術講演集、135:227(PF-39)、2024. 03.
2. 岩泉正和、福田有樹、久保田正裕、松永孝治、倉原雄二、永野聡一郎、坪村美代子、核 SSR マーカーに基づく九州の第二世代ヒノキ交配園における交配実態、日本森林学会大会学術講演集、135:224(PF-27)、2024. 03.

0 4 2 着花促進、種子生産性等

1. 加藤一隆、アカエゾマツのジベレリン処理による着花促進—処理 2 年後の着花状況及び最適な処理時期の検討—、北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-06、2023. 09.
2. 稲永路子、磯田圭哉、平尾知士、コウヨウザンの着花促進の試み、林木育種センター年報(令和 5 年版)、138-143、2023. 10.
3. 生方正俊、福田陽子、花岡創(静岡大学)、グイマツの球果含水率と種子散布との関係、日本森林学会大会学術講演集、135:226(PF-35)、2024. 03.
4. 木村恵(秋田県立大学)、圓谷花衣(秋田県立大学)、吉原溪太(秋田県立大学)、坪村美代子、田村明、奈良雅代(東京都農林総合研究センター)、中村健一(東京都農林総合研究センター)、西川浩己(山梨県森林総合研究所)、袴田哲司(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)、山中豪(三重県林業研究所)、山野邊太郎、新原一海(岡山県農林水産総合センター森林研究所)、西原寿明(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)、田口裕人(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)、ヒノキにおける採取適期の検証と球果成長におよぼす積算温度の影響、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:31、2023. 11.
5. 坪村美代子、松下通也、大平峰子、高橋優介、木村恵(秋田県立大学)、福田陽子、田村明、関東

育種基本区ヒノキ精英樹クローンのジベレリン処理による雄花着花量評価、日本森林学会大会学術講演集、135:227(PF-36)、2024. 03.

6. 宮下久哉、高島有哉、磯田圭哉、若齢時におけるスギ特定母樹のジベレリン処理による雄花着生性、日本森林学会大会学術講演集、135:227(PF-37)、2024. 03.
7. 松下通也、西川浩紀(山梨県森林総合研究所)、田村明、カラマツ採種園における母樹の成長と樹勢に対する環状剥皮、剪定時期および間伐の効果、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:23、2023. 11.
8. 福田陽子、人工交配で得られたカラマツ種子の特性、北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-08、2023. 09.
9. 福田陽子、人工交配で得られたカラマツ種子の特性、北方森林研究、72:ページ未定、2024. 02.

0 5 採種園、その他無性繁殖

0 5 1 さし木、つぎ木、発根性等

1. 大平峰子、増山真美、井上晃、佐久堇、坂本庄生、コンテナへ直挿ししたスギさし穂への施肥による成長促進効果、日本森林学会大会学術講演集、135:145(F6)、2024. 03.
2. 村田淳之介(九州大学)、福田有樹、田村美帆(九州大学)、渡辺敦史(九州大学)、スギ不定根形成誘導新規シグナル候補と不定根の人為誘導の可能性、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:19、2023. 11.
3. 福田有樹、スギにおける空中さし木法に適した環境の検討、林木育種センター年報(令和5年版)、131-134、2023. 10.
4. 福田有樹、栗田学、渡辺敦史(九州大学)、空中さし木法を利用した、スギにおけるさし木発根を制御する要因の解明に向けた試み、九州森林学会大会発表プログラム、79:育種 805、2023. 10.
5. 千吉良治、三浦真弘、金城智之(沖縄県北部農林水産振興センター)、西表島でのタイワンオガタマノキのさし木適期の探索、亜熱帯森林・林業研究会発表要旨集(令和5年度)、:12、2023. 08.
6. ITO Satoshi(伊藤哲・宮崎大学)、KURITA Manabu(栗田学)、HIRATA Ryoko(平田令子・宮崎大学)、YAMAGISHI Kiwamu(山岸極)、Rooting of sugi cuttings in closed and semi-closed conditions under mist irrigation(ミスト灌水下の閉鎖および半閉鎖状態でのスギ挿し木の発根)、Journal of Forest Research、28(5):380-383、2023. 05.

0 5 2 組織培養

1. 小長谷賢一、谷口亨、遠藤圭太、カギカブラの組織培養による苗木増産技術の開発、日本生薬学会年会講演要旨集、69:223、2023. 09.
2. 丸山莉生(東京農工大学)、土井巖(東京農工大学)、河村健太(東京農工大学)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良(東京農工大学)、ヒメバラモミ成熟種子から不定胚形成細胞を経由した植物体再生、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A14-P-10、2024. 03.
3. 河村健太(東京農工大学)、土井巖(東京農工大学)、丸山莉生(東京農工大学)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良(東京農工大学)、植物組織培養によるヒノキ成熟胚から誘導したカルスからの不定芽形成、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A13-10-0930、2024. 03.
4. 小長谷賢一、七里吉彦、谷口亨、平尾知士、スギ胚乳からの半数性カルスの作出、林木育種センター年報(令和5年版)、155-158、2023. 10.

0 6 育苗・その他形質記録

061 育苗

1. 大平峰子、松下通也、短時間の高温ストレスによるスギ実生コンテナ苗の成長阻害、関東森林学会大会講演要旨集、13:12、2023. 11.
2. 大平峰子、スギ実生コンテナ苗の育成用土の検討、林木育種センター年報(令和5年版)、113-114、2023. 10.
3. 大平峰子、松下通也、短時間の高温ストレスによるスギ実生コンテナ苗の生理障害、関東森林研究、75:ページ未定、2024. 03.

07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

071 樹木園、クローン集植所

1. 那須仁弥、カラマツ特定母樹の展示林の設定について、東北の林木育種、233:3-4、2023. 07.

072 広葉樹の育種

1. 中田了五、シナノキの種子取り扱い法の改良にむけて、北海道の林木育種、66(1):12-25、2023. 11.
2. 矢野慶介、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、谷口亨、オノエヤナギの伐採時期および伐採方法が萌芽発生量に与える影響、日本森林学会大会学術講演集、135:214(PE-40)、2024. 03.
3. 宮下久哉、高島有哉、河合貴之、堀口和真、関西育種基本区において選抜したセンダン優良木の系統間における初期成長の比較、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:20、2023. 11.
4. 小野田雄介(京都大学)、三浦真弘、岩泉正和、山田浩雄、樹形の遺伝的変異と光競争: クリを使った密度操作実験、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:13、2023. 11.
5. 福田陽子、ミズナラ優良種苗実証試験地における20年間の調査結果(I)、北海道の林木育種、66(2):1-7、2024. 03.
6. 那須仁弥、東北地方における「ユリノキ」優良個体の収集と採種園の造成、岩手の林業 3月号、2024. 03.

08 森林保護技術と被害様式

081 気象害抵抗性育種(凍害、寒風害、雪害等)

1. NOSE Mine(能勢美峰)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、OHIRA Mineko(大平峰子)、TAMURA Akira(田村明)、Transcriptome dynamics of Japanese cedar during the non-growing season(スギの非成長期における発現遺伝子の変化)、International Plant Dormancy Symposium、7:ポスター発表、2023. 09.
2. 松永孝治、岩泉正和、市原優、熊本県合志市において秋から冬にかけて観察されるスギ雄花枯れ現象、九州森林研究、77:177-180、2024. 03.

082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 久保田正裕、令和4年度に九州育種場が開発した抵抗性クロマツ品種、九州育種場だより、47:4、2023. 07.
2. 高島有哉、ドローンを活用したマツノザイセンチュウ接種苗の枯損評価の試み、関西育種場だより、101:1、2023. 07.
3. 松永孝治、岩泉正和、倉原雄二、福田有樹、久保田正裕、第二世代抵抗性クロマツ品種の後代検定ー保存園由来の実生苗による予備的な結果ー、九州森林学会大会発表プログラム、79:育種801、2023. 10.
4. 王子(九州大学)、田村美帆(九州大学)、松永孝治、久米篤(九州大学)、渡辺敦史(九州大学)、日

本マツヘリカメムシの侵入経路と拡大範囲の解明、九州森林学会大会発表プログラム、79: 育種803、2023. 10.

5. 松永孝治、マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の現状と課題、樹木医学研究、27(4):212-219、2023. 10.
6. TOGASHI Katsumi (富樫一巳・東京大学)、KASUGA Hayami (春日速水・東京大学)、KASUGA Satomi (春日聡美・東京大学)、MATSUNAGA Koji (松永孝治)、JIKUMARU Shota (軸丸祥大・広島県林業技術センター)、Pathogenicity and boarding abiliby of hybrid-derived populations between *Bursaphelenchus xylophilus* and *B. mucronatus* (Nematoda: Aphelenchoididae) (マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの雑種に由来する個体群の病原性と乗り移り能力)、Nematology、26:1-13、2023. 10.
7. "MATSUNAGA Koji (松永孝治)、HARA Ryotaro (原遼太郎・九州大学)、FUKATSU Eitaro (武津英太郎)、WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)、KUME Atsushi (久米篤・九州大学)、Effect of the western conifer seed bug *Leptoglossus occidentalis*, an invasive alien insect, on seed production reduction in Japanese black pine *Pinus thunbergii* (侵略性外来種マツヘリカメムシがクロマツの種子生産低下に及ぼす影響)、Journal of Forest Research、29(3):233-237
<https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2291343>、2023. 12."

083 耐やせ地性等

1. 能勢美峰、永野聡一郎、松下通也、高島有哉、平尾知士、安田悠子(鹿児島大学)、山野邊太郎、栗田学、トランスクリプトーム解析からみた耐乾性の異なるスギ系統の乾燥応答の違い、日本森林学会大会学術講演集、135:224(PF-25)、2024. 03.

09 育種材料の特性

091 総合特性(成長、形態等)

1. 岩泉正和、福田有樹、松永孝治、倉原雄二、松永順、久保田正裕、武津英太郎、栗田学、九州育種基本区における優良無花粉スギ品種の開発に向けた取り組みー令和3・4年度の九州育種場における一次試験の経過ー、林木育種センター年報(令和5年版)、127-130、2023. 10.
2. 岩泉正和、武津英太郎、栗田学、福田有樹、松永孝治、倉原雄二、久保田正裕、九州の雄性不稔遺伝子保有スギ交配家系における不稔遺伝子の保有度と成長特性との関連性、九州森林研究、77:187-190、2024. 03.
3. 岩泉正和、横山桂一郎(香川県森林センター)、表崎晃(香川県立農業大学校)、久保田正裕、香川県抵抗性採種園におけるマツノザイセンチュウ抵抗性マツの21年間の線虫接種データに基づく抵抗性評価、森林遺伝育種、12(3):85-94、2023. 07.
4. 日下真桜(京都大学)、松下通也、武津英太郎、亀井啓明(京都大学)、RAHMAN Md Farhadur (京都大学)、小野田雄介(京都大学)、スギ成長速度における系統間差を決定する樹冠特性について、日本森林学会大会学術講演集、135:240(PH-11)、2024. 03.
5. 日下真桜(京都大学)、松下通也、武津英太郎、亀井啓明(京都大学)、RAHMAN Md Farhadur (京都大学)、小野田雄介(京都大学)、スギ精英樹における成長速度の系統間差を決定する樹冠特性について、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:18、2023. 11.

092 成長

1. 檀浦正子(京都大学)、能勢美峰、福田有樹、松下通也、三嶋賢太郎、南尊大(京都大学)、田邊智

- 子(京都大学)、Epron, Daniel(京都大学)、香川聡、高梨聡、小南裕志、スギ2系統の地上部地下部における構造的・非構造的炭水化物の季節変動、根研究集会、58:P-12、2023. 11.
2. 檀浦正子(京都大学)、能勢美峰、福田有樹、三嶋賢太郎、松下通也、南尊大(京都大学)、田邊智子(京都大学)、Epron, Daniel(京都大学)、小南裕志、高梨聡、香川聡、13C パルスラベリングを用いたスギ 2 品種の炭素配分の季節変動、日本森林学会大会学術講演集、135:236(PG-33)、2024. 03.
3. 祁答院宥樹(鹿児島県森林技術総合センター)、岩泉正和、久保田正裕、松永孝治、渡辺敦史(九州大学農学研究院)、栗田学、武津英太郎、千吉良治、永吉健作(鹿児島県大島支庁)、スギ第2世代精英樹候補木の密度別植栽試験地における10年次までの成長量、九州森林学会大会発表プログラム、79:66(育種807)、2023. 10.

093 材質(心材色を含む)

1. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・宇都宮大学)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Among-family variations of radial variation patterns of wood properties in Japanese cedar, hinoki cypress, and Japanese larch(スギ, ヒノキ, およびカラマツにおける木材性質の半径方向変動パターンの家系間変異)、IUFRO-DIV 5 2023 Conference、MeetingRoom M3、2023. 06.
2. 高田直樹、稲永路子、小葉植物およびシダ植物における細胞壁クロスラメラ構造の保存性、日本植物学会大会研究発表記録、87:189、2023. 09.
3. 倉原雄二、岩泉正和、松永孝治、福田有樹、久保田正裕、スギ心材含水率の早期評価のための、若齢スギの心材形成状況の把握とクロウン評価、九州森林学会大会発表プログラム、79:25(育種816)、2023. 10.
4. 三嶋賢太郎、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、井城泰一、平尾知士、高島有哉、永野聡一郎、宮本尚子、福田有樹、福田陽子、平川英樹(かずさDNA研究所)、田村明、高橋誠、カラマツ精英樹における材質形質及び材質試験データのゲノムワイド関連解析とゲノミック予測精度、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:23、2023. 11.
5. NAKADA Ryogo(中田了五)、HANAOKA So(花岡創)、OHSAKI Hisashi(大崎久司・北海道立総合研究機構林産試験場)、MURAKAMI Satoru(村上了・北海道立総合研究機構林産試験場)、AKUTSU Hisashi(安久津久・北海道立総合研究機構林産試験場)、Intrafamily variation of grain spirality in a control-pollinated family of hybrid larch(グイマツ雑種F1の人工交配家系における繊維傾斜の家系内変動)、森林総合研究所研究報告、23(1):1-11、2024. 03.
6. 糸田川千畝(東京農工大学)、深見泰河(東京農工大学)、中田了五、高田直樹、栗野達也(京都大学)、船田良(東京農工大学)、半智史(東京農工大学)、ドロノキ放射柔細胞におけるプロテアーゼ RD21 の組織および細胞内局在の季節変動の免疫標識法による解析、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A13-10-1000、2024. 03.
7. 井城泰一、三嶋賢太郎、福田陽子、田村明、カラマツ第一世代精英樹の立木材質評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:22、2023. 11.
8. 井城泰一、三嶋賢太郎、福田陽子、田村明、カラマツ立木材質における後代家系から予測された育種価と親のクロウン評価値との関係、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-14、2024. 03.
9. 倉原雄二、松永孝治、武津英太郎、九州育種基本区のスギ第一世代精英樹の心材含水率評価、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-15、2024. 03.

10. 宮下久哉、高島有哉、ヒノキ精英樹実生後代におけるピロディン陥入量のバラツキ、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-16、2024. 03.
11. Masendra(東京農工大学・宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・東京農工大学・宇都宮大学)、TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Fanny Hidayati(ガジヤマダ大学)、Arif Nirsatmanto(National Research and Innovation Agency・Indonesia)、Sri Sunarti(National Research and Innovation Agency・Indonesia)、Among-family variations of wood-color parameters, total phenol content, and total flavanol content of the third-generation *Acacia mangium* in Indonesia(インドネシアにおける第三世代アカシア・マンギウムの材色パラメーター、総フェノール含有量および総フラバノール含有量の家系間変異)、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:13、2023. 11.
12. Umi Latifah Dyah Dharmawati(宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・東京農工大学・宇都宮大学)、TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、YOKOYAMA Hikari(横山ひかり、宇都宮大学)、ISHIGURI Futoshi(石栗太、宇都宮大学)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一、宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三、宇都宮大学)、Fanny Hidayati(ガジヤマダ大学)、Agus Ngadianto(ガジヤマダ大学)、Yus Andhini Bhekti Pertiwi(セベラスマレット大学)、Arif Nirsatmanto(National Research and Innovation Agency、Indonesia)、Sri Sunarti(National Research and Innovation Agency、Indonesia)、Among-family variations of growth and wood traits in the first-generation *Anthocephalus macrophyllus* in Indonesia(インドネシアの *Anthocephalus macrophyllus* における成長および木材形質の家系間変異)、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:14、2023. 11.
13. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、NEZU Ikumi(根津郁実・宇都宮大学)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、TAMURA Akira(田村明)、TSUBOMURA Miyoko(坪村美代子)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Modeling of radial growth curves and radial variation of basic density in *Chamaecyparis obtusa* planted in two progeny test sites(2カ所の検定林に植栽されたヒノキにおける肥大成長曲線および容積密度のモデリング)、Journal of Wood Science、70:2、2024. 01.
14. 岩泉正和、倉原雄二、福田有樹、松永孝治、高島有哉、松下通也、九州スギ精英樹植栽地における応力波伝播速度とピロディン貫入量のクローン内での個体間変動、九州森林学会大会発表プログラム、79:67(育種 814)、2023. 10.
15. 尾身頌吾(琉球大学)、カストロ ホワン ホセ(琉球大学)、千吉良治、沖縄県産テリハボク材の力学的特性に関する研究(その2)、亜熱帯森林・林業研究会発表要旨集(令和5年度)、:13、2023. 08.
16. 篠原弘一(宮崎大学)、吉ノ元遥香(宮崎大学)、雉子谷佳男(宮崎大学)、武津英太郎、倉原雄二、松永孝治、平岡裕一郎((静岡県立農林環境専門職大学)、樹冠・樹幹型情報を取り入れたスギ材質形質の制御機構の解明ー枝打ち率、IAA 量、ミクロフィブリル傾角ー、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-20、2024. 03.
17. 高崎美月(宇都宮大学)、根津郁実(宇都宮大学)、石栗太(宇都宮大学)、大島潤一(宇都宮大学)、横田信三(宇都宮大学)、高島有哉、大谷直希(栃木県林業センター)、栃木県産スギクローン3品種の木材性質の半径方向変動におけるクローン間差、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:18、2023. 11.
18. 高崎美月(宇都宮大学)、根津郁実(宇都宮大学)、石栗太(宇都宮大学)、大島潤一(宇都宮大学)、横田信三(宇都宮大学)、高島有哉、大谷直希(栃木県林業センター)、スギにおける板材材質の樹幹内変動とそのクローン間差、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B13-01-0945、2024. 03.

19. 加治屋杏奈(千葉大学)、田邊純(千葉大学)、花岡創(静岡大学)、福田陽子、アカエゾマツの容積密度のクローン間差異に寄与する産地の環境要因の影響、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:21、2023. 11.
20. 花岡創(静岡大学)、上田雄介、岩井大岳、福田陽子、アカエゾマツの冠雪害リスクと抵抗性に関する改良の可能性、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:22、2023. 11.
21. 花岡創(静岡大学)、田邊純(千葉大学)、福田陽子、アカエゾマツの根元曲がりと幹曲がりの抵抗性に家系間差が生じる要因、日本森林学会大会学術講演集、135:226(PF-32)、2024. 03.
22. 加治屋杏奈(千葉大学)、田邊純(千葉大学)、花岡創(静岡大学)、福田陽子、アカエゾマツ精英樹クローンの容積密度と産地の気象要因との関係、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:B14-P-13、2024. 03.
23. TANABE Jun(田邊純・千葉大学)、KAJIYA Anna(加治屋杏奈・千葉大学)、HANAOKA So(花岡創・静岡大学)、FUKUDA Yoko(福田陽子)、Clonal variations of wood properties in *Picea glehnii* and relationships of them with climate factor of their geographic origins(アカエゾマツの材質におけるクローン間変異と産地の気象要因との関係性)、International Conference of "Wood Science and Engineering in the third Millennium"(ICWSE 2023)、3:44、2023. 11.
24. 倉原雄二、岩泉正和、松永孝治、福田有樹、久保田正裕、若齢スギクローンの心材形成と心材含水率、九州森林研究、77:191-194、2024. 03.
25. 袴田哲司(静岡県森林・林業研究センター)、野末尚希(静岡県自然保護課)、高島有哉、松下通也、田村明、スギ推奨品種を親とした人工交配系統の若齢期の形質、中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、13:28、2023. 10.

094 抵抗性

1. 井城泰一、宮本尚子、東北育基本区で開発されたザイセンチュウ抵抗性クロマツの抵抗性及び特性評価、東北森林科学学会大会講演要旨集、28:ポスター発表 25、2023. 10.
2. 丹羽花恵(岩手県林業技術センター)、井城泰一、宮本尚子、蓬田英俊(岩手県林業技術センター)、マツ材線虫病被害地から選抜したアカマツ抵抗性候補木の材質形質の評価、日本森林学会大会学術講演集、135:226(PF-33)、2024. 03.

095 その他

1. GONG Qinyue(宮欽樂・名古屋大学)、AOKI Dan(青木弾・名古屋大学)、MATSUSHITA Yasuyuki(松下泰之・東京農工大学)、YOSHIDA Masato(吉田正人・名古屋大学)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、FUKUSHIMA Kazuhiko(福島和彦・名古屋大学)、Microscopic distribution of alkaloids in freeze-fixed stems of *Phellodendron amurense*(凍結固定したキハダの茎のアルカロイドの微視的分布)、Frontiers in Plant Science、14、<https://doi.org/10.3389/fpls.2023.1203768>、2023. 06.
2. GONG Qinyue(宮欽樂・名古屋大学)、AOKI Dan(青木弾・名古屋大学)、MATSUSHITA Yasuyuki(松下泰之・東京農工大学)、YOSHIDA Masato(吉田正人・名古屋大学)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、FUKUSHIMA Kazuhiko(福島和彦・名古屋大学)、Distribution of eight alkaloids in freeze-fixed stems of *Phellodendron amurense* in fall and summer by cryo-TOF-SIMS/SEM(凍結固定した秋と夏のキハダの茎における cryo-TOF-SIMS/SEM によるアルカロイドの分布)、International Symposium on Wood, Fiber and Pulping Chemistry、21:56-59、2023. 07.
3. 高橋誠、エリートツリーの開発と特定母樹による普及、林木育種情報、44:1、2023. 11.

4. 能勢美峰、動けない樹木の遺伝子レベルのうごき：刻々と変化する環境に適応するために、森林科学、98:28-30、2023. 06.
5. 平塚理恵(慈恵医科大学)、坪村美代子、三嶋賢太郎、無花粉スギ「爽春」の遺伝子を持つヘテロクローンの花粉形成、日本花粉学会大会鹿児島大会要旨集、64:40、2023. 12.
6. 中田了五、誘電土壌含水率計による樹幹含水率測定における温度補正、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:C13-04-1530、2024. 03.
7. 加藤一隆、エゾマツ交配園における着果の状況ー球果重量に見られる年次変動ー、日本森林学会大会学術講演集、135:228(PF-41)、2024. 03.
8. 平塚理恵(東京慈恵会医科大学附属病院)、坪村美代子、三嶋賢太郎、無花粉スギ「爽春」の遺伝子を持つヘテロクローン間における花粉形成の比較、日本森林学会大会学術講演集、135:144(F3)、2024. 03.
9. 福田陽子、三嶋賢太郎、永野聡一郎、花岡創(静岡大学)、福田有樹、針葉トランスクリプトームの季節変化におけるグイマツ雑種 F1 の特性、日本森林学会大会学術講演集、135:224(PF-24)、2024. 03.

1 0 遺伝資源

1 0 1 収集、保存

1. 齋藤拓哉(北海道大学)、米岡宏喜(北海道大学)、花岡創(静岡大学)、遠藤圭太、木下剛志(北海道大学)、鈴木伸吾(北海道大学)、荒川圭太(北海道大学)、ブナ種子の乾燥耐性機構に関する研究、低温生物工学会大会(セミナー及び年会)講演要旨集、68:31、2023. 06.
2. 遠藤圭太、花岡創(静岡大学)、松下通也、生方正俊、山田浩雄、細胞外凍結するカンバ類樹木の冬芽の凍結保存技術開発、低温生物工学会大会(セミナー及び年会)講演要旨集、68:43、2023. 06.
3. 蜷木朋子(東京都)、村田崇真(東京都)、北山朋裕(東京都)、玉城聡、遠藤圭太、遺伝資源の技術開発・保存・展示～オガサワラグワ培養苗の適正育苗土の検討～、東京都農林総合研究センター成果情報(令和5年版)、ページ未定、2024. 03.
4. 遠藤圭太、織部雄一郎、北山朋裕(東京都小笠原支庁)、村田崇真(東京都小笠原支庁)、吉井嘉子(小笠原野生生物研究会)、花岡創(静岡大学)、松下通也、長谷部辰高、玉城聡、倉本哲嗣、山田浩雄、飲料用ペットボトルを再利用した絶滅危惧種オガサワラグワの培養苗の馴化、日本森林学会誌、106(1):7-12、2024. 01.
5. 遠藤圭太、花岡創(静岡大学)、松下通也、生方正俊、山田浩雄、細胞外凍結するシラカンバ冬芽の超低温保存、低温生物工学会誌、69(2):53-56、2023. 11.

1 0 2 分類、同定、評価

1. NISHINO Sogo(西尾聡悟・農研機構)、TAKADA Norio(高田教臣・農研機構)、TAKEUCHI Yukie(竹内由季恵・農研機構)、IMAI Atsushi(今井篤・農研機構)、KIMURA K. Megumi(木村恵)、IKETANI Hiroyuki(池谷祐幸・岡山理科大学)、The domestication and breeding history of *Castanea crenata* Siebold et Zucc. Estimated by direction of gene flow and approximate Bayesian computation(遺伝子流動の方向性とベイズ法によって推定された日本産クリの栽培化と育種の歴史)、Tree Genetics & Genomes、19(5):44、2023. 09.
2. 稲永路子、武津英太郎、織部雄一郎、高田直樹、佐藤良介、山田浩雄、葉緑体 DNA シーケンスによるキハダの系統地理、日本森林学会大会学術講演集、135:221(PF-14)、2024. 03.
3. 生方正俊、田村明、エゾマツの球果・種子形質および種子の発芽タイミングの集団間差、北方森

林学会大会研究発表プログラム、72:P-04、2023. 09.

4. 生方正俊、中田了五、北海道のヤマナラシ天然林の遺伝的構造、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:P06、2023. 11.
5. 山田浩雄、近藤慎二(森林総研非常勤職員)、磯田圭哉、生方正俊、コウヨウザンに適用可能な単木材積式の検討、林木育種センター年報(令和5年版)、135-137、2023. 10.
6. 三嶋賢太郎、白澤健太(かずさDNA研究所)、井城泰一、平尾知士、平川英樹(かずさDNA研究所)、福田陽子、永野聡一郎、福田有樹、宮本尚子、小長谷賢一、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、田村明、倉本哲嗣、高橋誠、カラマツ着花変異系統を用いた雌花着花に関わる遺伝子座の探索、日本森林学会大会学術講演集、135:224(PF-23)、2024. 03.
7. MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、IKI Taiichi(井城泰一)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、MIYAMOTO Naoko(宮本尚子)、HIRAKAWA Hideki(平川英樹・かずさDNA研究所)、FUKUDA Yuki(福田有樹)、FUKUDA Yoko(福田陽子)、TAMURA Akira(田村明)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Genome-Wide Association and Genomic Prediction Analysis Using Variations of Physical and Mechanical Properties of Wood of Japanese Larch(*Larix kaempferi*). (カラマツにおける材質形質および材質試験データを用いたゲノムワイドアソシエーション解析とゲノミック予測)、Plant and Animal Genome 31(PAG31)、PE0068、2024. 01.
8. 宮本尚子、武津英太郎、井城泰一、岩泉正和、松永孝治、山野遼太郎、画像認識によるクロマツ雌花の開花ステージ判定の試み、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:24、2023. 11.
9. 今井友也(京都大学)、田鶴寿弥子(京都大学)、高田直樹、佐藤良介、押鐘浩之(大阪大学)、DNAバーコード解析の木材樹種同定への適用可能性に関する考察、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A13-10-1400、2024. 03.
10. 那須仁弥、次代検定林 Data を用いた単形質 BLUP および多形質 BLUP による系統評価の比較、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:28、2023. 11.
11. 岩泉正和、那須仁弥、アカマツ広域産地試験の東北および九州試験地の共通家系における雄雌の開花早晚性、日本生態学会大会講演要旨、71:P2-127、2024. 03.
12. 武津英太郎、松永孝治、平尾知士、三浦真弘、栗田学、井城泰一、宮原文彦(元福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター森林林業部)、佐藤太郎(元大分県農林水産研究指導センター林業研究部)、江島淳(佐賀県林業試験場)、横尾謙一郎(元熊本県林業研究、研修センター)、上杉基(元宮崎県林業技術センター)、三樹陽一郎(宮崎県林業技術センター)、永吉健作(元鹿児島県森林技術総合センター)、久保田正裕、渡辺敦史(九州大学大学院生物資源環境科学府)、大規模 SNP 情報から得たスギにおける九州の在来品種の遺伝的位置づけ、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:29、2023. 11.
13. 倉本哲嗣、コウヨウザンの産地試験の設定、林木育種情報、44:4、2023. 11.
14. 生方正俊、田村明、エゾマツの球果・種子形質および発芽形質の集団間差、北方森林研究、72:21-24(ページ未定)、2024. 02.
15. 稲永路子、キハダの葉フェノロジーの産地間変異、林木育種情報、43:5-6、2023. 7.

1 1 天然林等の育種

1 1 1 天然林の育種

1. 玉城聡、稲永路子、福山友博、磯田圭哉、岩泉正和、木村恵、阿武隈高地のモミ林のモニタリング試験地における 20 年間の林分構造の推移、日本森林学会大会学術講演集、135:248(PH-46)、

2024. 03.

2. 玉城聡、福山友博、稲永路子、長谷部辰高、木村恵(秋田県立大学)、小川広大、磯田圭哉、竹中拓馬、阿武隈高地森林生物遺伝資源保存林のモミ林におけるモニタリング調査(20年目)の結果、林木育種センター年報(令和5年版)、144-148、2023. 10.
3. 岩佐真彦(北海道大学)、村井良徳(国立科学博物館)、伊東拓朗(東北大学植物園)、岩泉正和、Kwak Myounghai(National Institute of Biological Resources、Korea)、Elena A. Marchuk, Pavel V. Krestov(Botanical Garden-Institute、Russia)、Svetlana N. Bondarchuk(Sikhote-Alin State Nature Biosphere Reserve、Russia)、Nataliya K. Kovtonyuk(Central Siberian Botanical Garden、Russia)、Ma Jinshuang(China National Botanical Garden、China)、Xing Yaowu, Yu Chih-Chieh(Xishuangbanna Tropical Botanical Garden、China)、福澤加里部(北海道大学)、山本福壽(鳥取大学)、福田知子(三重大学)、國府方吾郎(国立科学博物館)、中村剛(北海道大学)、北日本に優占するハルニレは南方系：遺伝構造と低温応答の緯度分化が示す分布拡大仮説、日本植物分類学会大会講演要旨集、23:A20、2024. 03.
4. 小川りさ(秋田県立大学)、大倉知夏(秋田県立大学)、井上みずき(日本大学、秋田県立大学)、工藤恵梨(秋田県立大学)、松下通也、坂田ゆず(秋田県立大学)、木村恵(秋田県立大学)、蒔田明史(秋田県立大学)、小面積開花後11年間のクマイザサ実生個体群の動態、日本生態学会大会講演要旨、71:P1-153、2024. 03.
5. IWAIZUMU G. Masakazu(岩泉正和)、Aziz Akbar Mukasyaf(九州大学)、TAMAKI Ichiro(玉木一郎・岐阜県立森林文化アカデミー)、NASU Jin'ya(那須仁弥)、MIYAMOTO Naoko(宮本尚子)、TAMURA Miho(田村美帆・九州大学)、WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、Genetic diversity and structure of seed pools in an old planted *Pinus thunbergii* population and seed collection strategy for gene preservation(クロマツ有名松原で採種された種子プールの遺伝的多様性・遺伝構造と遺伝子保存のための採種戦略)、Tree Genetics & Genome 19(1):9、2023. 02.

1 2 外国樹種の育種

1 2 1 外国樹種の育種

1. Masendra(宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・宇都宮大学)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、Fanny Hidayati(ガジャマダ大学)、Arif Nirsatmanto(インドネシア国家研究イノベーション庁)、Sri Sunarti(インドネシア国家研究イノベーション庁)、Surip(インドネシア林業機器規格評価センター)、Dwi Kartikaningtyas(インドネシア林業機器規格評価センター)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Variations of growth and wood traits in standing trees of the third-generation *Acacia mangium* families in Indonesia(インドネシアのアカシア・マンギウム第3世代の立木における成長と木材形質の変異)、Silvae Genetica、72(1):150-162、2023. 10.
2. 磯田圭哉、山口秀太郎、福山友博、武津英太郎、長谷部辰高、久保田正裕、大塚次郎、生方正俊、近藤禎二、山田浩雄、高知県土佐清水市辛川山国有林におけるコウヨウザンの萌芽更新、林木育種センター年報(令和5年版)、149-154、2023. 10.

1 2 2 海外の林木育種技術協力

1. Jason G. Kariuki(ケニア森林研究所)、Valentor A. Okul(ケニア森林研究所)、MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)、Breeding of *Melia volkensii*: Establishment of Clonal Seed Orchards and Subsequent

Progeny Trials in Kenya(センダンの育種：ケニアにおける採種園の造成と次代検定林の調査)、International Congress on Planted Forests 'Book of Abstracts'、5:23、2023. 11.

2. 稲本龍生(森林整備センター)、千吉良治、高濱美樹、大宮泰徳、千葉信隆、稲永良、飯野貴美子、飯塚樹、高橋誠、田村明、永野聡一郎、高橋優介、山田浩雄、武津英太郎、稲永路子、花岡創、宮下久弥、海外育種技術協力に向けた取組－モンゴルから院生ら招へい研修、ケニア・ベトナムに職員派遣し支援－、森林総合研究所研究成果選集 2023(令和5年版)、:44-45、2023. 06.

1 4 プログラム開発

1 4 1 プログラム開発

1. 宮本尚子、武津英太郎、井城泰一、岩泉正和、松永孝治、山野邊太郎、畳み込みニューラルネットワーク MobileNetV2 を用いたクロマツ雌花開花ステージの判定ツールの開発、日本森林学会誌、105(10):316-322、2023. 10.
2. 宮本尚子、クロマツ雌花開花ステージの判定ツールの開発、東北の林木育種、234:1、2023. 11.
3. 高島有哉、安田悠子(鹿児島大学)、スギにおける大断面切片画像を用いた木材組織学的解析のための新規 ImageJ プラグイン開発、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、12:26、2023. 11.
4. 高島有哉、安田悠子(鹿児島大学)、武津英太郎、松下通也、三嶋賢太郎、平尾知士、高橋誠、スギ大断面切片画像を用いた組織構造プロファイルの自動取得ソフトウェアの開発と精度検証、日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A14-P-02、2024. 03.

1 5 その他

1. 永野聡一郎、西暦 2057 年の林木育種、森林遺伝育種、12(2):84、2023. 04.